

提言第4号 気管切開術後早期の気管切開チューブ逸脱・迷入に係る死亡事例の分析

事例5

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代女性。筋萎縮性側索硬化症の患者。
- ・ 死因は、窒息。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖有。
- ・ 人工呼吸器管理下で、長期呼吸管理が必要となり、病棟で気管切開術（逆U字切開）を 施行。気管壁と皮膚の縫合有。気管切開チューブと皮膚の縫合固定無。
- ・ 逸脱当日の人工呼吸管理：SIMV※、FiO₂ 0.4、自発呼吸有。
- ・ 気管切開術終了後、気管切開孔から空気の漏れがあったが呼吸状態に変化はなく、人工呼吸器の警告なし。術後1 時間半、低換気アラームが鳴り、呼吸波形の異常、気管切開チューブのリーク音を確認した。その際気管切開チューブのサイズ違いに気づいた。病棟で気管切開チューブの入れ替えを試みるが、再挿入できずに全身チアノーゼ、皮下気腫が出現し10 分後に心肺停止、経口挿管を実施したが死亡。

※ SIMV：同期型間欠的強制換気